



Flash News

〈フラッシュニュース〉

目次

- 「第10回環境コミュニケーション大賞」で
優秀賞(環境配慮促進法特定事業者賞)に輝く
- 寄附講座「地域医療学講座」の設置
- 「地域メディアに関する」公開研究会
- 「東海・東南海・南海地震シンポジウム
—その時に備えて防災を考える—」開催
- 三重大学アカデミックフェア2007開催
- 18年度「第2回ハラスメント防止研修会」
- 「文部科学大臣による優秀教員」ならびに
「平成18年度三重県文化賞(文化奨励賞)」受賞
- 駐日ブルネイ・ダルサラーム国大使訪問
- みえメディカル研究会「知的財産研究会セミナー」を開催

「第10回環境コミュニケーション大賞」で優秀賞(環境配慮促進法特定事業者賞)に輝く



2月19日、(財)地球・人間環境フォーラムと環境省主催の、標記大賞環境報告書部門で、本学が作成した「三重大学環境報告書2006」が優秀賞を受賞しました。これは、事業者等の環境コミュニケーションへの取組みを促進するとともに、その質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。昨年4月、環境配慮促進法が施行されたことを受け、同法の対象とされた特定事業者(国立大学法人等)が作成した「環境報告書」を表彰する「環境配慮促進法特定事業者賞」が新設され、この度はその初めての表彰となります。総括環境責任者(渡邊悌爾理事)をはじめ環境報告書の作成に携わった学生・教職員は、環境ISO認証取得の励みとし、「環境マインドの高い」学生を多数輩出することのできる大学づくりに邁進したいと願っています。なお、表彰式は3月26日、日本教育会館一橋ホール(東京都)において執り行われます。

式は3月26日、日本教育会館一橋ホール(東京都)において執り行われます。

寄附講座「地域医療学講座」の設置

三重県は、2月22日の県議会の一般質問において、東紀州地域を中心に「魅力ある病院づくり」など、地域医療に関する研究を行うため、本学大学院医学系研究科に「地域医療学講座」を設置することを明らかにしました。これは、地域医療の研究を行うなかで、特に医師確保等で課題となっている東紀州地域等における保健・医療・福祉分野における連携体制、医師の研修プログラム作成などのコーディネートを行うと共に、東紀州等地域の拠点病院(県立志摩病院、尾鷲総合病院および紀南病院)での診療や若手医師の指導をしながら病院と診療所、病院と病院の役割分担や連携の仕組みづくりの研究および医師の働く環境整備の実践・研究を行うものです。この寄附講座(地域医療学講座)の設置期間は、平成19年3月1日から3年間で、人件費や研究費等として県は、年額4,000万円を計上しており、今後、本学では、具体的な体制等を整えていくこととなります。

「地域メディアに関する」公開研究会

次代を見すえた新たな考え方や視点を模索する標記公開研究会(事務局:みえメディアコンソーシアム)が、2月21日、学術情報ポータルセンターと(社)三重県情報通信基盤整備協会が共催し、メディアホールで行われました。亀岡孝治理事(情報・国際交流担当)による「地域における包括的情報通信基盤について～e-culture」と題した基調講演・課題提起に続いて、小林英雄教授・工学研究科による「ユビキタス社会についての最新動向」や佐藤義則教授・人文学部による「歴史街道GIS」などの具体的な専門テーマについての発表がありました。また、県やNPOによる地域SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サイト)実証実験の報告などがあり、参加した約40名の大学、県・市町、企業関係者らの活発な意見交換が行われました。



「東海・東南海・南海地震シンポジウム－その時に備えて防災を考える－」開催

本学と和歌山大学は、2月10日熊野市において、防災啓発の地域貢献事業の一環として標記シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、三重県熊野県民センター県民防災室と熊野市遊木自主防災会の東紀州防災ネットワークの活動報告に続き、「災害を想定して地域の医療・看護を考える」(司会：川口淳助教授・三重大学災害対策プロジェクト室)と「災害時における孤立地域の情報発信・受信をどうするのか？」(司会：此松助教授・和歌山大学防災研究教育プロジェクト)の2つのテーマについてパネルディスカッションが行われました。180名の参加者からは、「災害後の心のケアの大切さや皆で助け合うことの大切さを再認識できた」「パネラーの様々な切口での話がよかった」など好評な意見が寄せられました。また、防災関連図書・パネルの展示、ビデオ放映、草刈り機発電機、地震体験車やAEDのデモンストレーション、無料住宅耐震相談などもあり、参加した市民の関心を引いていました。



三重大学アカデミックフェア2007開催

2月17日、人文学部棟で、高等教育創造開発センター教育連携部門主催の「三重大学アカデミックフェア2007」が開催されました。午前中には6つのカフェ(分科会)で、活発な討論が行われ、12:00～13:30には、教育学部の学生、院生、教員、現場教師たちの実践がポスターセッションとして紹介されました。13:30～16:30には、第4回法則フェスタが開催され、身近な法則が報告され、参加者の投票により法則大賞が決定しました。集まった120名の学生、教員、市民たちは、学問の楽しさを満喫しました。この模様は中日新聞、伊勢新聞、ZTVなどで報道されました。

18年度「第2回ハラスメント防止研修会」



2月20日、標記研修会が医学部臨床第三講義室でNPO法人名古屋交流分析協会の鷺津秀樹講師を招いて開催されました。「人間関係を良くするコミュニケーション・スキル」と題した講演では、「ハラスメントを防止するためのコミュニケーションのとり方、言葉の使い方について」と自分の性格を分析するためにエゴグラムを用いて演習を行いました。約50名の参加者は、熱心に耳を傾けていました。

「文部科学大臣による優秀教員」ならびに「平成18年度三重県文化賞(文化奨励賞)」受賞

2月15日、全国の国公私立学校で優れた成果を挙げた教員に対して贈られる初の「文部科学大臣による優秀教員表彰式」が東京千代田区の科学技術館サイエンスホールで行われ、本学教育学部附属中学校・川島雅樹教諭が、表彰されました。同教諭は、これまで6年間附属中学校の音楽の授業を担当するとともに同校音楽部の顧問として合唱の指導を行い、平成17年度第58回全日本合唱コンクール全国大会(全日本合唱連盟・朝日新聞社主催)で金賞を受賞、平成18年度も同大会において銀賞を受賞しています。また、三重県からは、同教諭の音楽・オペラ・合唱の普及活動の功績に対して「平成18年度県文化賞(文化奨励賞)」が贈られ、3月8日に表彰式が行われます。



左から：丹保教育学部長
川島雅樹教諭
山根栄次校長

駐日ブルネイ・ダルサラーム国大使訪問

2月19日、駐日ブルネイ・ダルサラーム国大使一行(大使夫妻、二等書記官、大使秘書の計4名)が三重大学を訪問されました。今回の訪問は、本学国際交流センターの高澤信子講師が以前、駐日ブルネイ大使館で大使・外交官の日本語講師であったことが縁で実現したもので、豊田学長、亀岡理事、高澤講師らが一行を出迎え、和やかに懇談が行われました。懇談の中で、今後、ブルネイ政府を通して、三重大学生物資源学部とブルネイ大学(国立)関係学部とが研究開発を行うことや国費留学生派遣についての提案もなされ、ブルネイ国からは「三重大学との友好関係に寄与できるよう尽力したい」との言葉をいただきました。ブルネイ国は、三重県と同じくらいの面積を持ち、石油産出国で、税金なし、医療費無料、学費無料、老後の貯えの必要がない大変恵まれた国です。現在、ブルネイ国産出の天然ガス・石油のほとんどを日本に輸出しており、日本と関係が深い国です。



みえメディカル研究会「知的財産研究会セミナー」を開催



みえメディカルバレー知的財産活用促進事業、知的財産活用・流通セミナーとの共催で、2月16日、2月19日に標記セミナーが開催されました。バイオ・メディカル系の知的財産専門の法律事務所である大野総合法律事務所(東京・霞ヶ関ビル)から商標専門の中村仁弁理士とバイオ系知財専門の中道徹弁護士を招き、それぞれ「商標の基礎から活用まで－商標による企業のブランド戦略－」(16日)と「大学が行う共同研究における秘密保持契約と秘密管理について」(19日)のタイトルで講演をいただきました。みえメディカル研究会に登録している企業から多数の参加者がありました。講演後には具体的な事例についての議論もあるなど、盛況なセミナーとなりました。なお、両日の講演内容は本セミナーを企画した医学部産学連携医学研究推進機構(内線：6214)にてビデオ並びに資料を保管していますので、関心のある方はご連絡ください。

投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治(vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾